



# 平成22年12月期 第1四半期決算短信

平成22年4月30日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ベストブライダル

コード番号 2418 URL <http://www.bestbridal.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 塚田正之

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長

(氏名) 石原啓次

TEL 03-5464-0081

四半期報告書提出予定日 平成22年5月14日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年12月期第1四半期の連結業績(平成22年1月1日～平成22年3月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第1四半期	7,356	11.7	960	42.8	967	41.1	512	44.4
21年12月期第1四半期	6,587	—	672	—	685	—	354	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年12月期第1四半期	6,278.66	—
21年12月期第1四半期	4,348.71	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年12月期第1四半期	38,434	12,872	33.5	157,751.60
21年12月期	37,530	12,546	33.4	153,752.75

(参考) 自己資本 22年12月期第1四半期 12,872百万円 21年12月期 12,546百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年12月期	—	2,500.00	—	2,500.00	5,000.00
22年12月期	—	—	—	—	—
22年12月期(予想)	—	2,500.00	—	2,500.00	5,000.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年12月期の連結業績予想(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	16,000	6.5	2,240	△9.9	2,110	△15.5	1,170	△16.6	14,338.24
通期	35,500	9.3	6,550	4.5	6,300	2.1	3,530	4.1	43,259.80

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年12月期第1四半期 81,600株 21年12月期 81,600株

② 期末自己株式数 22年12月期第1四半期 一株 21年12月期 一株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年12月期第1四半期 81,600株 21年12月期第1四半期 81,600株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成22年2月12日に公表いたしました連結業績予想は、第2四半期連結累計期間、通期とも本資料においては修正しておりません。

2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等について、及び上記1に係る業績予想の具体的内容は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出や生産の一部に景気改善の兆しが見られるものの、設備投資の抑制や個人消費の低迷等、本格的な景気回復には至らず、引き続き厳しい状況の中で推移いたしました。

そうした環境下にあっても、当社グループはゲストハウス・ウエディングにおける新しい価値の創造に常に積極的に取り組み、高品質かつ魅力ある店舗づくりとサービスの提供、また、業務効率の改善にも積極的に取り組み、売上高の拡大と収益性の向上に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は7,356百万円（前年同期比11.7%増）となりました。利益につきましては、営業利益960百万円（同42.8%増）、経常利益967百万円（同41.1%増）、四半期純利益512百万円（同44.4%増）となりました。

これを事業部門別に見ますと、各事業部門における業績は次のとおりであります。

#### (1) 国内事業部門

前連結会計年度に開業いたしました新規店舗（1店舗）が売上増に貢献いたしました。また、既存店舗におきましても、受注活動が順調に推移し、売上高が増加いたしました。

この結果、同部門の売上高は6,872百万円（前年同期比12.7%増）となりました。

#### (2) 海外事業部門

ハワイビジネスにおきましては、マーケット全体の穏やかな回復基調と営業基盤の強化拡充を受け、受注残高は大幅に増加いたしました。しかしながら、当第1四半期における施行件数につきましてはほぼ横ばいとなり、同部門の売上高は、484百万円（前年同期比1.2%減）となりました。

### 2. 連結財政状態に関する定性的情報

#### (1) 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ904百万円増加して、38,434百万円となりました。これは主に、新規出店に伴い有形固定資産が950百万円増加したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ577百万円増加して、25,562百万円となりました。これは主に、未払法人税等は減少したものの、納税資金調達に伴い、短期借入金が800百万円、前受金が801百万円増加したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ326百万円増加して、12,872百万円となりました。これは主に、利益剰余金の配当が204百万円あったものの、四半期純利益を512百万円計上したことによるものであります。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ306百万円減少し、7,519百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの変動要因は次のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は420百万円（前年同期は102百万円の使用）となりました。これは主に、法人税等の支払額1,949百万円に対して、税金等調整前四半期純利益950百万円、減価償却費525百万円、前受金の増加額800百万円によるものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は1,690百万円（前年同期は1,324百万円）となりました。これは主に、出店に伴う有形固定資産の取得による支出1,444百万円によるものであります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は969百万円（前年同期は911百万円）となりました。これは、有利子負債（短期借入金、長期借入金、社債）の純増額1,170百万円の収入に対して、配当金の支払額200百万円によるものであります。

### 3. 連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、国内経済は、景気を持ち直しが期待されるものの、雇用情勢の一層の悪化やデフレスパイラルが懸念されるなど、厳しい状況の中で推移していくものと考えられます。

しかしながら、当第1四半期連結累計期間末における受注残高は7,432件(前年同期比17.5%増)と引き続き好調な状態を維持しております。

こうした状況を踏まえた上で、当連結会計年度(平成22年12月期)の業績予想につきましては、平成22年2月12日に公表いたしました「平成21年12月期決算短信」に記載のとおり、売上高35,500百万円、営業利益6,550百万円、経常利益6,300百万円、当期純利益3,530百万円を引き続き見込んでおります。

### 4. その他

#### (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

#### (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

##### ① 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

##### ② 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

##### 税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は法人税等に含めて表示しております。

#### (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,627	7,933
売掛金	70	72
商品	99	95
原材料及び貯蔵品	309	303
その他	992	1,146
貸倒引当金	△14	△15
流動資産合計	9,086	9,536
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	11,895	11,945
土地	4,572	4,569
建設仮勘定	4,610	3,652
その他(純額)	722	681
有形固定資産合計	21,800	20,849
無形固定資産	295	310
投資その他の資産		
敷金及び保証金	2,795	2,708
その他	4,448	4,117
投資その他の資産合計	7,244	6,826
固定資産合計	29,340	27,985
繰延資産	8	8
資産合計	38,434	37,530

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,531	1,484
短期借入金	1,100	300
1年内返済予定の長期借入金	2,576	2,433
1年内償還予定の社債	336	376
未払法人税等	454	1,976
前受金	2,254	1,453
賃貸借契約解約損失引当金	52	48
その他	1,511	1,439
流動負債合計	9,815	9,511
固定負債		
社債	762	890
長期借入金	13,467	13,072
退職給付引当金	71	63
役員退職慰労引当金	206	201
賃貸借契約解約損失引当金	244	261
その他	995	983
固定負債合計	15,746	15,472
負債合計	25,562	24,984
純資産の部		
株主資本		
資本金	472	472
資本剰余金	634	634
利益剰余金	11,881	11,573
株主資本合計	12,988	12,679
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△0	—
繰延ヘッジ損益	△66	△55
為替換算調整勘定	△49	△78
評価・換算差額等合計	△115	△133
純資産合計	12,872	12,546
負債純資産合計	38,434	37,530

(2) 四半期連結損益計算書  
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)
売上高	6,587	7,356
売上原価	4,585	4,846
売上総利益	2,002	2,510
販売費及び一般管理費	1,329	1,550
営業利益	672	960
営業外収益		
受取利息	15	13
匿名組合投資利益	55	57
その他	34	21
営業外収益合計	105	92
営業外費用		
支払利息	73	79
持分法による投資損失	16	2
その他	2	2
営業外費用合計	92	85
経常利益	685	967
特別利益		
固定資産売却益	0	—
特別利益合計	0	—
特別損失		
店舗閉鎖損失	3	5
固定資産除却損	—	11
特別損失合計	3	16
税金等調整前四半期純利益	683	950
法人税等	328	438
四半期純利益	354	512

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	683	950
減価償却費	456	525
社債発行費償却	0	0
有形固定資産除却損	—	11
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1	△0
退職給付引当金の増減額(△は減少)	1	7
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	5	4
賃貸借契約解約損失引当金の増減額(△は減少)	—	△13
受取利息及び受取配当金	△15	△13
支払利息	73	79
為替差損益(△は益)	△20	△13
持分法による投資損益(△は益)	16	2
匿名組合投資損益(△は益)	△55	△57
たな卸資産の増減額(△は増加)	54	△10
仕入債務の増減額(△は減少)	25	46
前受金の増減額(△は減少)	592	800
その他の負債の増減額(△は減少)	△33	75
その他	△144	51
小計	1,641	2,447
利息及び配当金の受取額	8	5
利息の支払額	△80	△82
法人税等の支払額	△1,672	△1,949
営業活動によるキャッシュ・フロー	△102	420
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△814	△1,444
無形固定資産の取得による支出	△25	△2
投資有価証券の取得による支出	△390	△101
関係会社株式の取得による支出	—	△200
貸付けによる支出	△66	△63
貸付金の回収による収入	—	202
敷金及び保証金の差入による支出	△36	△84
その他	9	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,324	△1,690
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,300	800
長期借入れによる収入	680	1,092
長期借入金の返済による支出	△613	△553
社債の償還による支出	△218	△168
配当金の支払額	△237	△200
財務活動によるキャッシュ・フロー	911	969
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8	△6
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△523	△306
現金及び現金同等物の期首残高	6,164	7,825
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,640	7,519

- (4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。
  
- (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

6. その他の情報

施行、受注及び販売の状況

(1) 施行実績

期別	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)	前連結会計年度 (自平成21年1月1日 至平成21年12月31日)
事業部門の名称	施行件数(件)	施行件数(件)	施行件数(件)
国内事業部門	1,427	1,611	6,952
海外事業部門	470	475	2,278
合計	1,897	2,086	9,230

(2) 受注状況

期別	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)		当第1四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)		前連結会計年度 (自平成21年1月1日 至平成21年12月31日)	
	受注件数 (件)	受注件数残高 (件)	受注件数 (件)	受注件数残高 (件)	受注件数 (件)	受注件数残高 (件)
国内事業部門	1,927	4,948	2,213	5,835	7,737	5,233
海外事業部門	999	1,377	887	1,597	2,615	1,185
合計	2,926	6,325	3,100	7,432	10,352	6,418

(3) 販売実績

期別	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)	前連結会計年度 (自平成21年1月1日 至平成21年12月31日)
事業部門の名称	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
国内事業部門	6,097	6,872	29,978
海外事業部門	489	484	2,513
合計	6,587	7,356	32,491